

## 頭部ポジショニング角度が脳 MRI 自動位置決め機能にもたらす影響

(公財) 脳血管研究所美原記念病院 画像診断科 大川竜也

【目的】頭部 MRI の撮像断面を自動的に位置決めする機能 (Ready Brain) は、AC-PC line と正中矢状線に準じた断面像が得られる。しかし、被写体によっては正しい位置決めが出来ず撮影者が手動で行う場合もある。そこで、被写体の頭部ポジショニング角度が自動位置決め機能にもたらす影響を検討した。

【方法】健常ボランティア 5 名に対して Ready Brain を使用し、自動位置決めされた 3 断面 (Axi, Cor, Sag) を以下の条件で撮影した。①頭部を AC-PC line を基準に前後屈  $5^{\circ}$  ,  $10^{\circ}$  ,  $15^{\circ}$  ,  $20^{\circ}$  。②頭部を正中矢状線を基準に左右  $15^{\circ}$  ,  $30^{\circ}$  ,  $45^{\circ}$  ,  $60^{\circ}$  。得られた画像が、AC-PC line と正中矢状線に準じた断面か誤差を角度計測し評価を行った。

【結果】頭部ポジショニング角度が、前屈方向に  $10^{\circ}$  以上傾く場合に自動位置決め機能にもたらす影響が大きかった。

【結語】Ready Brain を使用する際は、頭部のポジショニングを行うにあたり前後屈の角度に留意する必要がある。